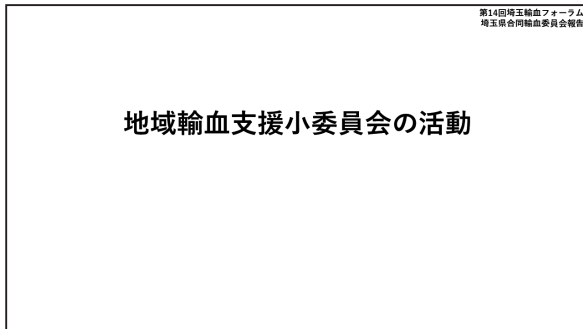


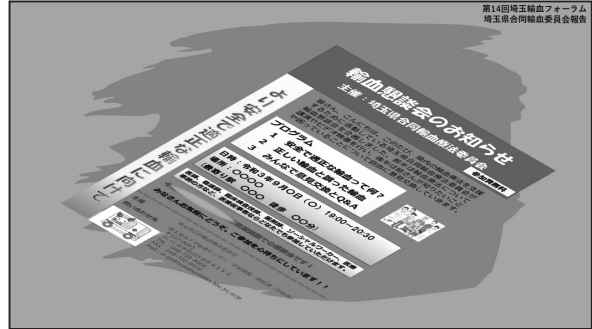
## 報告3 地域輸血支援小委員会の活動

演者：石田 明 埼玉医科大学国際医療センター 輸血・細胞移植部

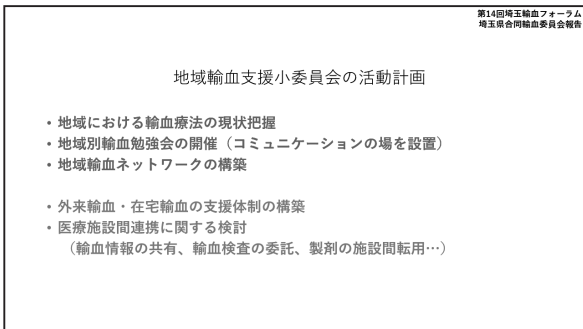
スライド8



スライド10



スライド9



次に地域輸血支援小委員会の活動です。この委員会では、現在、地域における輸血療法の現状の把握、それから地域における輸血勉強会の開催、コミュニケーションの場を設置する。それから地域輸血ネットワークの構築。この三つをテーマとしています。将来的には外来輸血、在宅輸血の支援体制の構築、そして医療機関施設間の連携に関する検討も進めていきたいと考えています。

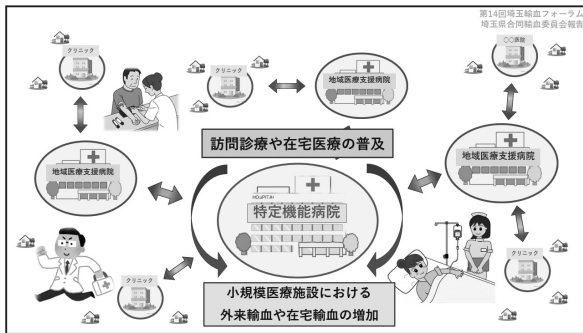
昨年度計画した懇談会のしおりです。コロナ禍で今年度も開催が叶いませんでしたが、来年度こそは開催したいと思っています。

スライド11



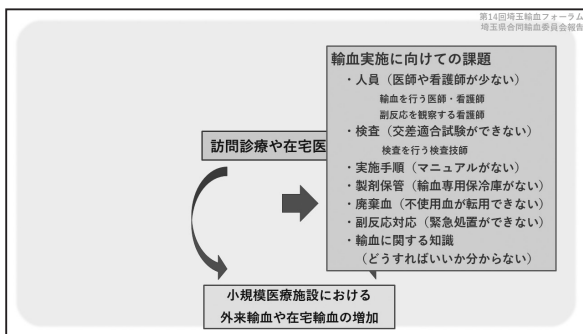
これは、今年度計画した意見交換会の資料です。地域のコミュニケーションの場を図るために、医療機関と直接意見交換を行うとすることを現在検討しています。参加施設を現在募集していますので、施設の候補があればすぐに開催していきます。

スライド 12



訪問診療在宅医療の普及に伴って小規模医療施設における外来輸血や在宅輸血が増加しています。

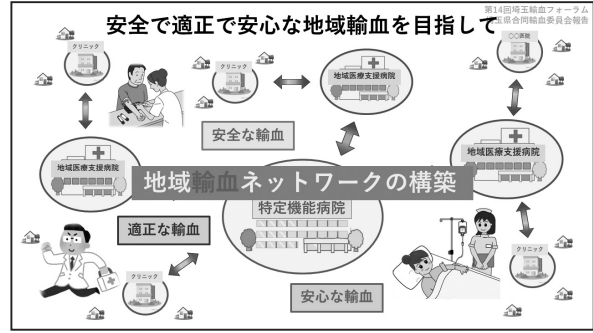
スライド 13



しかしながら、それに伴って輸血実施に向けてさまざまな課題が生じています。人員の問題、検査の問題、実施手順の問題、それから製剤保管、廃棄血、副反応対応、輸血に関する知識、このようになります。

これらの課題を解決し、安全で適正で、安心な地域輸血を目指すためには、地域の輸血ネットワークの構築が必須であると言うふうに考えます。

スライド 14



安全で適正で安心な地域輸血を実現するためには、地域輸血ネットワークの構築がなくてはならないと考えます。

スライド 15



すでに先陣を切って「NPO血液在宅ネット」というものが立ち上げられていて、このネットにおいては在宅輸血に関する各種リソースの提供や共有細工マップの作成地域コミュニティの構築、ATRの貸し出しなどの活動を積極的に進めております。本日は、この「血液在宅ねっと」のリーダーでおられる大橋先生にご講演をいただく予定になっており、非常に楽しみにしています。

スライド 16

- 第14回埼玉輸血フォーラム  
埼玉県合同輸血委員会報告
- ・適正使用推進小委員会  
輸血療法委員会と適正使用に関する現状調査を開始しました。
  - ・地域輸血支援小委員会  
懇談会や意見交換といった企画を計画中です。
  - ・輸血業務検討小委員会 検査技師部会  
中規模医療機関の廃棄血削減に向けて活動しました！  
この後、張ヶ谷委員から報告があります。
  - ・輸血業務検討小委員会 看護師部会  
2年ぶりにオンラインセミナーを開催しました！  
この後、木村委員から報告があります。
  - ・自己血輸血小委員会  
自己血Q&Aが遂に完成しました！  
この後、池淵委員から報告があります。

この後、3つの活動報告をしていただきます。検査技師部会からは針ヶ谷委員から、それから看護部会からは木村委員から、そして、自己血輸血小委員会からは、池淵委員から報告があります。

スライド 17



スライド 18

令和4年2月 埼玉輸血フォーラム  
埼玉合同輸血委員会報告

(照射) 赤血球液-LR「日赤」の有効期間変更のお知らせ

謹啓 時下ますます清栄のこととお慶び申し上げます。  
2月1日(水)より、自血回輸に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。  
**赤血球製剤の有効期間が**  
**21日間から28日間に延長されることになりました！**  
今後とも指導ご鞭撻の程、よろしくお祈り申し上げます。 謹白

2. 有効期間  
[採血後21日間]から[採血後28日間]に変更。

採血日(1日目) | 採血後 21日間 | 21日目 | 28日目 | 採血後 28日間

現行製剤 | 変更後製剤

あと1分だけ時間をください。赤血球製剤の有効期間が21日から28日延長になると言うお話がありました。

スライド 19

第14回埼玉輸血フォーラム  
埼玉合同輸血委員会報告

廃薬血に関する多施設後視調査 (厚生労働省科学研究費「田中班」)  
— 大規模医療施設 (2018年度) & 小規模医療施設 (2019年度) —

赤血球製剤の有効期限延長と血液転用可能率との関係

「赤血球製剤の有効期間が延びれば廃薬血は減ると思うか?」  
という質問に対する回答 (小規模医療機関を対象)

はい 60.0 否 40.0  
75.0 内科 28.0  
71.4 外科 28.0  
40.0 内科 64.0  
28.6 外科 71.4

提言：赤血球製剤の有効期限延長が望まれる (7日~14日)

大規模医療施設：41施設のうち 埼玉県から13施設にご協力いただきました！  
小規模医療施設：40施設のうち 埼玉県から22施設にご協力いただきました！

これに関し、有効期限延長に向けて、われわれは調査研究をとうして、厚生労働省にずっと呼びかけてまいりました。

例えばこの左側のグラフは血液製剤の有効期間

を延長することによって、不使用となった製剤がどのくらい転用可能になるかということ調査したのですが、使用量の多い医療施設では一週間の延長によって80%以上の製剤が転用可能となる可能性があります。それよりも使用量の少ない施設においても、それに応じて転用可能となることがわかります。また、右のグラフは赤血球製剤の有効期間が延びれば廃棄は減ると思うかという質問を小規模施設の施設に問いかけたところ、特に外科系、それから透析の施設では七割を超える施設で、赤血球製剤の有効期間の延長を求める声がありました。

この有効期間延長に向けて、我々は調査研究を通して厚生労働省に働きかけてきました。

そしてその提言が今回の有効期間延長の引き金になった訳です。

スライド 20

第14回埼玉輸血フォーラム  
埼玉合同輸血委員会報告

**赤血球製剤の有効期間が延長されたのは皆様のおかげです  
ご協力いただいた施設に深く感謝申し上げます**

ピンクに緑字は埼玉県内の医療機関です

東京医科大学八王子医療センター	さいたま赤十字病院	わかさクリニック
東邦大学医療センター大森病院	緑谷赤十字病院	至聖病院
東京聖立東急病院	三基メディカルセンター	みんず国際診療クリニック
青森県立中央病院	JCHO埼玉メディカルセンター	小林病院
東京慈恵会医科大学附属病院	国立病院機構埼玉中央病院	西沢入院病院
信愛大学病院	埼玉協栄病院	佐藤病院
名古屋大学病院	上野中央総合病院	飯能市東青野医療介護センター
全次大学附属病院	埼玉医科大学総合医療センター	小笠方クリニック
立教大学病院	戸田中央総合病院	深谷病院
東京女子医科大学八千代医療センター	国立病院機構埼玉病院	岡村記念クリニック
獨協医科大学病院	埼玉立がんセンター	忠恕会 高松病院
岡山大学病院	聖徳赤十字病院	シロコロクリニック
東京大学医学部附属病院	東京都立駒込病院	小野クリニック
東京聖立小児医療センター	東京都立松戸病院	新中野女性クリニック
東京聖立女子学院	東京都立保健医療センター	新藤石川クリニック
群馬県立心臓血管センター	東京都立東葛医療センター	新藤記念病院
東京聖立平塚総合医療センター	群馬県立高崎病院	松本クリニック
高松県立中央病院	群馬県立高崎病院	山王バースセンター
武蔵野赤十字病院	群馬県立高崎病院	緑が丘クリニック
東京都立東横病院	群馬県立高崎病院	群馬県立総合クリニック
	群馬県立高崎病院	山手山内内科病院
		戸田中央病院
		戸田中央病院

実は、この研究には埼玉県から多くの医療機関に参加しご協力いただきました。協力いただいた施設のうち、このピンクの示した部分は全部埼玉県の医療施設です。約半分近くの施設が埼玉県ということで、

埼玉県の医療機関の皆様のご協力こそが赤血球の有効期間延長の実現につながったと言ってもいいのではないのでしょうか。

この場を借りて今日お聞きになっておられる方もおられますので、お礼を申し上げたくてこのスライドを提示させていただきました。以上です。